

岡田 和彦 教授

【おかだ かずひこ】

広島県出身。東京大学大学院修了。経済学博士（東京大学）。「資本主義経済の理論」「経済システム論」担当。若者は、よく学びよく遊ぶというメリハリのきいた生き方をするなかで成長する、との信念は、ナイーブだとの評もある。



- 資本主義経済の理論Ⅰ・Ⅱ
- 経済システム論Ⅰ

研究テーマ

普通の人の希望を育み、現実の社会に活力を与えるような、新たな経済システムとはどのようなものなのか。このような問題意識にもとづいて、かつての「社会主義」国とりわけソ連・東欧諸国の徹底した市場経済への移行、つまり資本主義経済へのシステム転換について、理論的および実証的に分析してきました。最近ではその関心を、今日の中国経済さらには日本経済の現状にも拡大しています。

担当科目

「資本主義経済の理論Ⅰ・Ⅱ」では資本主義経済の基礎理論を講義します。それは、市場経済・資本主義経済の基本的な仕組みと運動のありかたについて、一般的に、つまりいかなる国の資本主義経済にも基本的には共通するような経済システムとして、理論的に説明するものです。「経済システム論Ⅰ・Ⅱ」では「資本主義経済の理論」で習得した基礎理論にもとづいて、1980年代から1990年代にかけてソ連・東欧諸国や中国で展開された市場経済への移行過程のより具体的な現実を、理論的に解明します。「基礎演習・演習Ⅰ・Ⅱ」では、市場経済がよりよく機能するために不可欠の制度であるセーフティネットとはどのようなものか、その理論と現実について研究します。こうして、われわれに希望を与えてくれる実現可能な経済システムについて、学生とともに悩み考える、という姿勢で講義・ゼミを進めています。皆さんの積極的な参加を心から期待しています。

希望を与える経済システム

ゼミ生のひとこと



岡田先生は、なぜか「僕は性格が悪いから」というのが口癖ですが、学生の話によく耳を傾けてくださる、とても優しい先生です。そんな先生のゼミでは、セーフティネットについて研究しています。現代のグローバリゼーションのなかで、市場経済のもたらすリスクがさまざまな領域で拡大しています。セーフティネットとは、このリスクを社会全体で共有するための制度です。その具体的なありかたについて考察することが、私たちゼミ生の課題です。

岡田ゼミ11期生（2008年入学） 三島 佳